

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		諫早療育センター 障害児通所 ひまわり		公表日		年 月 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	3	スクリーンを使用している。必要に応じ、空間スペースの工夫をしている。	個室が必要 多機能の為、長期休み時は狭く感じる。利用者人数が増えた時は、畳・ベッドの使用が不適切な時がある。個別空間が必要(音が混ざっていることが気になる。)	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	4	自力で移動できる利用者がほとんどいない為、車椅子移動では適している。利用時は担当者を決めて対応している。	送迎対応バタついていることがある 利用者が少なく、職員が多く感じる時がある。追加や欠席等の理由でスタッフの増減を配慮しなければいけない時がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	5		バリアフリー化が出来ていない。 全体的に大人の目線に合わせた情報配信(ポスター等)になっている為必要に応じて高さを変えてもいいのではないか。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	3	空調・換気・寝具等の調整、配慮している。 多機能型の為、活動が大人と一緒にの時もあるが、本人に合わせて言葉かけや対応をしている。特性に合わせてながら過ごしやすい姿勢や環境維持に努めている。	リハビリの空間がもう少しほしい。 成人の利用者と一緒の為工夫が必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	4	パーテーションや空き部屋等で対応している。	いつでも自由に使える個室が必要 個別の部屋がない。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	5	業務改善委員会を中心に行っている。	PDCAが浸透できていない	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	3	送迎時に実施している。送迎時間の会話を大切にしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1	問題が発生した時はタイムリーに意見交換が出来ていると思う。	必要時、行っていると思うが十分な時間が取れていない。必要に応じ会議を行い、改善に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	7			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	0	定期的に研修が行われている。外部の研修に参加する機会もあり学びに繋がっている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	2	作成中		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10	1	保護者の意見が強すぎて、そのまま受け入れず、今必要なのか等の判断をして計画を実施している。モニタリングや案作成時、家族の要望の聞き取りをしている。	保護者のニーズがメインとなっている為、本人のニーズに適しているかは不明。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	将来、利用時がどのように生活していくのかなど考え計画している。支援会議を実施し、原案に沿って説明し、意見を聞いている。共通理解できるよう対応の仕方等訪ね実施している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	1	計画書に5領域を含め、細かく支援内容が記載されており、それに沿った支援を行っている。	職員の知識や経験不足により過剰な支援が見られることがある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	5	適応できる可能性があるのであれば、伸ばして行けるようアセスメントを実施し、アプローチしていく。	思い付きで実施されることが多く、標準化されていない。標準化されたツールを用いたアセスメントが把握できていない為、明確なものが欲しい。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	3		支援に対してのねらいにスタッフ個々の考え方に温度差があり、設定が難しいと感じる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	1	季節の行事等担当者を決めて立案している。支援員がチームとなり毎月毎に担当者を変えて立案している。	滞在時間が短い為思うように行えない	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	0	毎月新しい活動を取り入れる工夫をしている。個別対応が多い。	重心対象の為、反応がはっきりしない	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	1	集団行動は他者との交流を目的とし個別活動では主に訓練を目的として関わっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	3	毎朝、ミーティングが行われている。活動前にはレクリーダーが活動の流れを説明し、全体的な指導をとっている	勤務終了時のミーティングが必要 打ち合わせと言えるディスカッションは薄いと 感じる時がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	8	必ずではないが、疑問点などは共有している。	振り返りが十分でない時がある。終了後は行 われていない。送迎や掃除等で時間が十分に 確保できない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	2		ステップアップするための評価がないので共 有の為、充分にとる必要がある。記録として は残しているが改善等は不十分である。
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	1	モニタリングは行っているが細かい見直しは 不足していると思う。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	2	施設外活動等取り入れている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	1	全員ではないが可能な限り配慮するようにしている。対 応時は声掛けを大切にしている。 選択できるよう二択での投げかけ等を取り入れるよう心 掛けている。	自己決定できる児童が少ない
関係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	1	サビ管を中心に会議を行っている。	家族のニーズがメインの内容になっており過 剰な支援に感じることがある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	8		連携が少なく支援体制が不十分だと感じる
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	4	事業所側が始業式等の日程を学校やご家族へ 確認している	学校側との情報共有はほとんどなくもう少し 共有したい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	8		情報共有する機関や機会が少なすぎると感じ る。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	3	放デイから生活介護への移行については同事 業所で可能。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	9		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	11		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	3	児発管がこども部会に参加している。	積極的に参加していない
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	2	送迎時などに報告している。	事業所からの報告は随時行っているものの家 族との温度差を感じる。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	10		ペアレントトレーニングが必要と感じる家庭 が多い為、実施すべき。家族支援は手伝いでは ないと思う。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	1	計画に細かく記載している。	書類は渡しているが丁寧とは言えないかもしれない。伝 えてはいるが家族の理解度が低いことがあり、情報共有 されていないことがある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0	家族の要望を聞き取り立案している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	2	送迎時等、家族の様子を窺いながらその都度 説明し、必要であれば上司へ報告、対応して いる。	家族からの具体的な持ちかけは少なく、事業 所からの報告時に困り事が発覚することが多 い。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	10		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0	ご家族との新しい連絡ツールを活用し始めた。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	4	年に1回の通信発行を行っている	HPやSNSなどは活用していない
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	10		
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	2	
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	5	作成中	まだ策定されていない。
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11	0	お薬手帳の確認と更新を行い、情報収集できている。	
49		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	0	指示書はないが情報収集はできている	
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	2	作成中であり、スタッフとの意見・検討を行っている。	
51		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	3	協力が得られるよう家族との対話を行っている。具体的な取り組みは出来ていない。	
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	0		
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	0	毎年研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	1	ご家族からの同意を得ている。		